

## 先端技術による新たな価値創造



取締役 専務  
溝口 哲也

IT(情報技術)不況が継続するなかで、企業の経営環境は悪化しておりますが、個別の技術で見ると、更に発展が期待される分野が多数あります。ユビキタス<sup>(注)</sup>社会に向け、デジタル・モバイル・ネットワーク技術の中核とした情報サービスが拡大します。また、ITを駆使したソリューションビジネスは引き続き発展して、効率の良い、豊かな社会を実現していくでしょう。東芝は、複合電機メーカーである強みを発揮して、この分野で世界をリードできると確信しており、無線通信技術、メディア処理技術、システムLSI・メモリ技術、光・磁気技術を中心に基盤となる技術開発に注力していきます。

部品、製品及びシステムのそれぞれの先端技術が、技術の相乗効果を有効に発揮して“知の融合”、“技術の融合”のもとに新しいビジネスモデルを創造し、新しい価値を社会に提供することが、新たな価値創造に向けた技術開発の目標となります。このために、モバイル技術の強化、Time to Marketを速くするためのソフトウェア設計技術の強化、設計開発コラボレーションの推進などに注力していきます。また、DVD、SDメモ리카ード、デジタルコンテンツの保護技術などの分野で、業界の先頭に立った標準化活動を推進し、情報セキュリティに関しても、国際標準(ISO)に基づく電子認証システムを使ったサービス展開を進めます。

2002年の技術成果のポイントは、以下のとおりです。

まずモバイル/ネットワーク分野では、製品としてW-CDMA方式の携帯電話、Windows®上でペン入力を可能としたタブレットパソコン(PC)、Bluetooth™ディスク HOPBIT™などを発売しました。また、音声認識技術とBluetooth™技術を融合して、ユビキタス環境を実現するヘッドセットを開発しました。次に、ホームネットワーク/家電分野では、液晶ワイヤレスカラーテレビ FACE™、ネットワーク対応HDD&DVDレコーダなどを発売しました。また、技術を融合し新たな価値を創造する製品として、冷蔵庫・オープンレンジ・ホームランドリーをワイヤレスにつなぐネットワーク家電 FEMINITY™シリーズ、無線LAN技術と画像圧縮技術によりPCとAV機器との融合を図った TransCube™10などを発売しました。システムインテグレーション/サービス分野では、インターネットの共通言語であるXML技術を用いたナレッジウェアハウスなどのソリューションを提供し、医用機器部門では、デザイン性に優れた超音波診断装置を発売しました。

また、電力・エネルギー分野では、IT技術を駆使した発電所監視制御システム(DCS)の完成、原子炉機器の検査技術、業務用固体高分子型燃料電池(PEFC)システムの開発を行いました。製品の基礎となるデバイス/材料分野では、シリコンオンチップ(SOC)のコア技術となるMeP(Media embedded Processor)の開発、モバイル機器向け小型メタノール燃料電池、自動焦点・ズーム機能付きカメラなどを開発しました。

以上、先端技術の融合による新たな価値創造に向けた、当社の技術開発の成果の一端を紹介いたしました。具体的な内容は本文をご一読いただきたいと思います。皆さまのご助言、ご指導をいただきたくお願い申し上げます。

(注) ユビキタス：“どこにでもある(遍在する)”を意味するラテン語が語源で、いつでも、どこでも、誰でもコンピュータとネットワークを利用できる環境のこと。